

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあじさい藤野 2階	評価実施年月日	平成22年2月8日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	あじさい藤野独自の、理念を作り上げている。「幸輪」 幸せの輪を広げ 楽しく有意義な時間を共に末永く過ごせるよう支援します。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を念頭に置きながら、実践に向けて取り組んでいるが、全職員が取り組んでいるとは言えない。	○	会議時に理念の理解を深め、実践に向けて取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関に理念の啓示をしている。他には取り組んでいない。	○	まずは運営推進会議等で、地域の方々に理解して頂けるよう取り組んでいきたい。 他にも、広報紙に載せる等しご家族への取り組みもしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	顔を合わせた際に挨拶をする程度しか行えていない。気軽に立ち寄っていただけるような、親しい付き合いは出来ていない。	○	あいさつの際には、会話を積極的に行っていき、徐々に交流を深めていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の方々の企画で、年2回ほど交流会を開催。その他にも町内のイベント(夏祭りや盆踊り等)にも参加している。深いかわりとは言えないものの、地域の方々との交流を図れるよう努めている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員間での話し合いはしておらず、とりくんでいない。	○	今後、まずは話し合いの機会を設け取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員が意味や意義を理解しているとは言えない。自己評価・外部評価を生かした改善に取り組んではいるものの、具体的でなく十分とは言えない。</p>	○	意味や意義を全職員が理解したうえで、事業所としても職員個人としても改善に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>今年度は会議を開催できていない。</p>	○	来年度からは、定期的に会議を開いていき、サービス向上につなげていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>会議を行う際には、包括支援センターの方にも参加して頂けるよう、声をかけているがそれ以外ではほとんど行き来する機会は持っていない。</p>	○	サービスの質の向上の為に、機会を作っていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>学ぶ機会を持っていない、支援もしていない。</p>	○	今後学ぶ機会を持っていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>勉強会としてしっかりと学ぶ機会は作れていない。職員それぞれが見過ごす事のないように、注意を払っている。</p>	○	しっかりと学べるように、勉強会等の機会を設けていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約の前にご本人・ご家族様と面談し不安に思う部分など、可能な限り説明をし、理解・納得を図っている。解約に関しても同様。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見や要望を言いやすい雰囲気や努め、訴えがあった際には希望に添えるよう取り組んでいる。他にも、日々の会話や行動から不満等を汲み取るよう努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の広報紙の発行や、来訪時の情報交換を行い、状況・状態をご家族様が把握できるよう努めている。新入社員の紹介は広報紙で行うようにしているものの、異動や退職などは知らせていない。	○	入社だけでなく、異動や退社も広報紙など、ご家族様に分かる形で報告をしていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	共用玄関に苦情箱を設置しているがほとんど利用されていない。他にも、来訪された際等に伺っているが苦情や不満の言葉は返ってこない。	○	意見や不満など訴えやすい雰囲気を作り、お互いで支えあっていけるような関係作りに努め、入居者様の生活の質の向上を図りたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	提案を聞く機会はあるものの、運営に関しての意見はほとんどない。	○	意見があった際には、出来る限り反映させられるようにしたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯に職員を確保できるようシフトの調整はしているものの、人員不足が多い。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的に、事業所同士での異動は無い。事業所内での異動はあるが最小限にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居希望があった際には、ご本人と直接お会いし、ご本人の意向を聞き取り、安心して利用して頂けるようにしている。ご本人の状態によっては、ホームに見学に来ていただいている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族様とは何度かお会いし、困っていることや不安に思っていることを聞き取り、出来るだけ安心して利用して頂けるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族様、ならびにかかりつけ医の等の関係者からの話を聞き、グループホームが適切か適切でないかの検討を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の今までの暮らし方や、生活のリズム等を聞き取り、ご本人のペースに合わせ、徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援される側の立場に立ち、尊敬する気持ちを忘れず、支えあう関係を築いていけるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との情報を交換・共有し、一緒にご本人を支えていくように心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様が来訪された際には、希望にもよるが出来る限りご家族様の時間を大切にしている。ご家族とご本人の関係が悪い場合、関係は理解しているものの、よくなるような支援は出来ていない。	○	どうい支援をすればよい関係を築いていけるのか、考えていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望があった際には出来るだけ希望に添った支援を出来るよう心がけている。また、なじみの方の面会があった際には、また気軽に来られるような雰囲気作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士は関わることは少ない為、孤立しないように入居者感のかかわりを持って頂けるよう、レクリエーションへの参加の促しや、会話を取り持つよう努めているが、十分ではない。	○	レクリエーションや食事の際等、職員を介して入居者様同士の会話の機会をもっと作っていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時は必ず、ご本人やご家族の意向を聞き取り反映。ご本人に意向を聞きとることが困難な場合は、本人本位でのプランや、日々の会話・行動などから汲み取り、全職員で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からの聞き取りや日々の会話等から、把握に努めているが、担当入居者以外の方は細かい部分まで把握しているとは言えない。	○	担当以外の入居者様はある程度しか把握できていない為、今後きちんと把握し、日々の支援に反映させていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察・会話・申し送り・職員間の情報交換を行い、把握に努めているが、申し送りに関しては業務の流れで行えない時がある。	○	申し送りは、情報を絵得るためには一番重要な物の為、必ず行えるように体制を整えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	今現在ご本人に必要なサービスを職員間で意見交換し、ご本人・ご家族様の意向を伺い、反映させながら、プランの見直し・作成を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しは必ず行っている。その他に、身体状況に変化が生じた場合には、職員間で検討。ご家族様と話し、その時に必要な支援を適切に行えるよう対応して絵いる。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録の記入はしているが、全職員がそれを参考に実践やケアプランの見直しに活かしているとは合点得ない。記録内容も、十分な内容を全職員が記入しているとは言えず、大まかな内容だったり、内容が薄かったりしている。	○	日々の観察の中での気づき等を細かく記入し、現場やケアプランに活かしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他サービスを受けたいという希望が無い為、支援していない。	○	希望があった際や、必要と判断した際には支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の提携先をかかりつけ医として利用している方については、月2回の往診や急変時の早急な対応をして頂いている。情報の共有を図ることで、関係を築いていけるようにしている。	○	提携先以外の病院は、急変時すぐに対応して頂けるよう、しっかりと関係を築いていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医がおり、職員・入居者共に、認知症に関して相談できる雰囲気であり、診断や治療をして頂いている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携先の担当看護師さんには、少しの変化や些細なことでも連絡をした際には、相談にのって頂き、必要に応じ適切な対応をして頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご本人への負担に配慮し出来るだけ早くに退院できるよう、情報交換や共有に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期に関して、具体的にしっかりと話し合っていない。	○	今後、早い段階からの話し合いを行い、それまでの方向性やそれからの方向性を共有しケアに当たって行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来ること、出来ない事を日々の生活のなかから見極め、担当医からのアドバイスを受け、より良く生活していけるよう、チームとして支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えの際には、ご本人への負担を考え、ご家族様や関係者とは事前に話し合い混乱を防げるよう努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>本人につながる、社内の書類・写真の持ち出しの禁止。個人情報の口外禁止を徹底している一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声掛け・対応をしないよう努めているが、気付かないうちに、そういう声掛けや対応をしているかもしれない。</p>	○	<p>職員間で注意をしあい、プライバシーを確保していく。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合った声掛けや対応を行い、その方の意思を尊重するよう心がけている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせた支援をするように心がけているが、職員の都合や業務を優先していることがある。</p>	○	<p>業務よりも入居者が優先ということを念頭に置き、職員間の協力体制を強化し、一人ひとりのペースを大切に支援していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服などは限られた中からおしゃれできるよう工夫しているが、起床後の髪を整えるなどの整容は職員によって行えていないことがある。理容・美容は、希望があればなじみの店に行けるよう支援し、希望がなければ訪問美容室を利用していただいている。</p>	○	<p>ご本人の尊厳を守るという点でも、身だしなみは重要な部分になる為、きちんとした支援が出来るよう徹底していく。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ご本人との会話の中や、ご家族様から好みを聞きとり出来るだけ提供するようにしている。ご本人の状態に合わせた食事形態にするなど心がけている。出来る方には盛り付けや下膳と一緒にさせていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来るだけご本人の希望に沿うように支援しているが、ご本人の持っている病気によって制限される物がある際には、担当医との相談にて、出来るだけ楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の習慣をつけていただいている。同時に排泄パターンの把握を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間の感覚を持っていただくために、設定はしているものの、本人の希望や体調によって変更している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の意思や希望時、体調に応じ休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	楽しみごと・気晴らしに関しては、レクリエーションに反映させているが、入居者全員に同じように支援は出来ない。	○	それぞれの生活歴を考慮し、それぞれの入居者が現在の状態で活かせる事を考え支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望や力に応じて、所持している方もおられるが、大半はご家族様が管理しているため、所持・使用はほとんどしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人からの希望がない為、体調や天候を考慮しながら、こちらから声掛けをしている。車を使用しなければならない外出の際は、車使用予定があることもあるため、希望日に外出出来るとはかぎらないが、そういう場合には別日に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者全員、もしくは個別(2~3名)の外出レクの予定を立てている。日々の会話の中で希望があった際には、出来るだけ企画できるように心がけているが、希望は少ない。ご家族様との外出に関しては一切制限していないため、出かけられる機会はある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいずれも行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来られるような雰囲気作りをし、来訪者にはいつでも来てかまわないとの旨を伝えている。来られた際には、入居者と過ごす時間を大切に、状況に応じ間に入り会話を楽しんでいただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないが、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解していないのが現状。	○	正しく学べる機会を持ち、正しい知識で身体拘束をしないケアにあたって行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中に関しては、弊害を理解した上で鍵は掛けておらず、誰でも出入りできる状態になっている。 居室に鍵はない為、施錠は出来ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中居間にて過ごす時間の多い入居者に関しては、把握するように努めているが、常時把握できているとはいえない。夜間に関しては、定時の巡回以外にもそれぞれの入居者様の状態に合わせ、訪室の頻度を多くするなどし、把握に努めている。	○	日中は特に、居室で過ごされる方の様子や所在を常に把握できるよう、職員間の声掛けや情報交換を密に出来るようにしていきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況に応じ、危険な物は出来るだけおかないようにしているが、職員が配慮して危険を防げるものについては、置いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒や誤薬などの事故に関して、事故防止策を職員全員で考え実施。それでも事故が起こった際には更なる防止策の検討を繰り返し行っている。窒息や離設に関して、事故を防ぐための知識は十分とはいえない。火災に関しては、避難訓練を行っている。	○	知識を深める勉強会を設け、取り組みたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	行っていない。	○	訓練を定期的に行えるよう体制を整え、対応できるように学んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防を呼んでの訓練や、自主訓練を行っているが、身につけてはいない。	○	訓練回数を増やし、いざというときに役立つように、身につけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その方の病気や、それに伴う症状によって起こり得るリスクについては、ご家族様にお話し、ご本人により快適に暮らしていただけるよう、対応策を話し合うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>日々の生活の中での心身の状態の変化の観察、1日3回の血圧・体温測定を行い、申し送りや記録の確認などで情報の共有を行っている。変化や異変の発見をした際には、上司・医師への報告・相談を行っている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>目的や副作用、用法・用量を把握するよう努めているが、全てを把握できていない。追加された薬があった場合は、経過を観察し記録している。</p>	○	薬剤情報の確認を徹底し、目的・副作用、用法・用量を出来る限り把握していきたい。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>便秘が及ぼす影響は、しっかりと理解出来ていない。毎朝、ヨーグルトを食べていただき、腹筋を意識した体操を行っていただいている。他にも、飲水量の把握をし、少なければ促すなどしている。</p>	○	便秘が及ぼす影響を理解した上で、便秘の予防・対応にあたって行きたい。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>一人ひとりの状態にあった支援の仕方にて行っている。体調やその時の状況によって行えないことや介助拒否をされる方もいるため、全員の清潔が保持できているとはいえない。</p>	○	拒否がある方に関しては、徐々に習慣づけていただけるよう、支援内容の検討・実施をしていきたい。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>栄養バランスを考え、カロリー計算をした献立を提供。一人ひとりの食事摂取状況、飲水量がわかるように、チェックボードを設置し、職員それぞれで把握に努めている。食事や水分は一人ひとりの状態に合わせた工夫をし、支援している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>予防接種の実施。手洗い・消毒・うがいの徹底。室温・湿度の調整などは行っているが、感染症が起こった場合の対応の仕方は身についていない。</p>	○	対応の仕方などを学ぶ機会を作り、感染症が起きたときに備えて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎晩調理器具の除菌・漂白を施行。賞味期限の厳守。新鮮な食材の確保。生物は出来る限り加熱するなど、食中毒予防は行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>毎朝玄関周りを掃除し、月に1～2回程度建物周囲の清掃・整備を行っている。花壇・菜園は随時必要に応じ整備している。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日の入り方によって遮断するなど、その都度適切な対応をしている。レクリエーションの際には季節のものを取り入れ、作成したり、会話の中にも季節感のある話題を盛り込み、季節感を出すよう心がけている。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>建物の構造上、1人になれる空間は居室しかなく、共同空間は食堂兼リビングしかないため、なかなか入居者一人ひとりが思うような居場所(娛樂室のような場所)の提供は出来ていない。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様には出来るだけ、本人の使い慣れたものや、馴染みのもの・好みのものを用意していただいている。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際には、窓を開け空気の入替えを行っている。室温・湿度は季節によって適切に保てるよう配慮している。その他、必要に応じ随時対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	完全バリアフリーになっており、廊下・階段には手すりを完備。動線上には少しの時間でも物を置かないよう配慮している。トイレに関しては車椅子だと、少し狭いため不便。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「トイレ」の表示や居室にそれぞれの名前を表示。一人ひとりに合わせた、声掛けや対応を行い、混乱や失敗を防げるよう工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物正面には花壇があり、裏には菜園がある。夏場には入居者様と一緒に整備や収穫が出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・基本的な部分ではあるが、個々の心身の残存機能の維持
- ・入居者様が、楽しく有意義に生活できるよう、かかわり・ふれあいを大切にしている。